

## 身に付けて欲しい日本剣道形の基本的所作・作法について

京剣連 審査委員会

剣道段位審査会での日本剣道形の所作・作法で、間違いやすいところをあげてみました。

次の受審から実行して下さい。

(出典 形解説書、指導要領、講習会資料、運営要領 等)

## 1 木刀の把持等

- 提刀の場合、刃の部分を上にする。【講習会資料】
- 提刀で礼をするとき、(反動で) 剣先を上げないようにする。

## 2 歩行

- 木刀を持った手を前後に振って歩かない。

## 3 帯刀

- 帯刀時、木刀の柄頭が正中線(上)となるように。【講習会資料】
- 剣先は後ろ下がり約45度になるように。【指導要領】
  - ※ 木刀が水平になっている人が多い。
- 帯刀時、右手は体側からやや前に位置するのが自然。
  - ※ 右手を腰につけている人がいる。

## 4 立礼の位置

- およそ9歩とする。【形解説書】
  - ※ 9歩より遠い間合いで立礼している人が多い。
  - (注) 立礼後、互いに右足から大きく3歩踏み出して蹲踞しながら構えた場合、木刀の横手あたりが交差する位置とする。【形解説書・講習会資料】
  - (注) 試合の場合は、開始線の手前3歩の位置で立礼すること。【運営要領】
  - (注) 立会が終了したら、蹲踞して木刀を納め、立ち上がって帯刀のまま小さく5歩退がるが、このとき5歩目の左足に右足を引きつけること。

## 5 蹲踞

- 蹲踞しながら刀を抜き合わせるが、このとき、左斜め上から抜き、極端に振りかぶらないようにすること。【講習会資料】
  - ※ 水平または下方から抜き合わせる人がいる。

## 6 太刀・小太刀の持ち方(四・五段)

- 持ち方
  - 二刀は平行に持つようにする。【講習会資料】
- 置き方
  - 小太刀を置く位置は、仕太刀の立会の位置から右(左)後方約5歩のところに刃部を内側にし、下座側の膝をつき、演武者と平行に置く。【形解説書・講習会資料】
    - ※ (下座側に、) 下座側の膝をついて置く。
- 小太刀の構え
  - 木刀の場合は、(左手の) 親指を後ろに、四指を前にして腰にとる。【講習会資料】

以上